

穴水中 SING プロジェクト

～「生き方科」と「生徒会活動」を通して、人と人、人と地域をつなぐ～

(1) プロジェクトの名称について

穴水町復興計画では、計画の方向性として「今の良さを守り伸ばす（SUSTAINABLE）」「挑戦し変化する（INNOVATION）」「奥能登の軸となる（GATEWAY）」の3つが示されている。そして、穴水中もその一翼を担い町の人と人を結び付ける役割をしたいという思いで「人と人をつなぎ互いに共有する（NETWORK）」という言葉を加え、頭文字をとって「SING」とした。1年間の成果として、文化祭の全校合唱で心を込めて地域の皆さんに「SING」し、勇気と元気を伝えることをゴールとし活動を進めていく。

(2) このプロジェクトに中学生が取り組む理由

穴水町復興計画のシンボルプロジェクトとして「災害に強いまちづくりプロジェクト」が掲げられている。その中で、具体的な取組として「防災意識の向上」「防災計画の見直し」「災害に対する備え」「記憶の伝承」が挙げられている。いずれの活動も、町のこれからについて考え様々な活動を行っている中学生が中心となって活動することが効果的であるとする。なぜなら、下記の例に示しているように、各教科の中で学習している内容に防災の視点を付け加えることにより、シンボルプロジェクトの具体的な取組になるからである。

また、中学生が活動することで、地域の人と人がつながっていく。中学生で学んだこと、身に付けたことは生涯忘れることがない。防災教育をツールとして、生徒が「より良い生き方」を考えていく場となる。

以上のことから、中学生が取り組んでいくことは効果的であるとする。

(3) 穴水中 SING プロジェクトの概要

「生き方科」と「生徒会活動」という2本の柱で進めていく。

「生き方科」では、自分の命、家族の命、地域の人たちの命を守ることを考えていくことが、自分のより良い生き方を考えていくことにつながると考える。

「生徒会活動」では、生徒の自治活動を大切にしながら、アウトプットする力（表現力・コミュニケーション力）を育てていく。そのような力が育つことで、より良い生き方を考えていくことにつながると考える。

(4) 「生き方科」のカリキュラムについて

◇教科（9教科・道徳・総合的な学習の時間）と学級活動を結び付けた学習を行う。

◇各教科の中で特別なことをするのではなく、学習活動の中に防災の視点を入れ現在の教育課程の中で行う。

【各教科での学習例】→自分・家族・地域を守ることを考える＝より良い生き方を考える

◇国語・・・情報収集、情報の整理、発信

◇社会・・・ハザードマップ

◇数学・・・地震の揺れの仕組み

◇理科・・・地震の仕組み

◇英語・・・安全な避難方法の説明

◇音楽・・・全校合唱

◇美術・・・防災ピクトグラムづくり

◇保健体育・・・ストレス解消法

◇技術・・・エコキューブラジオ制作

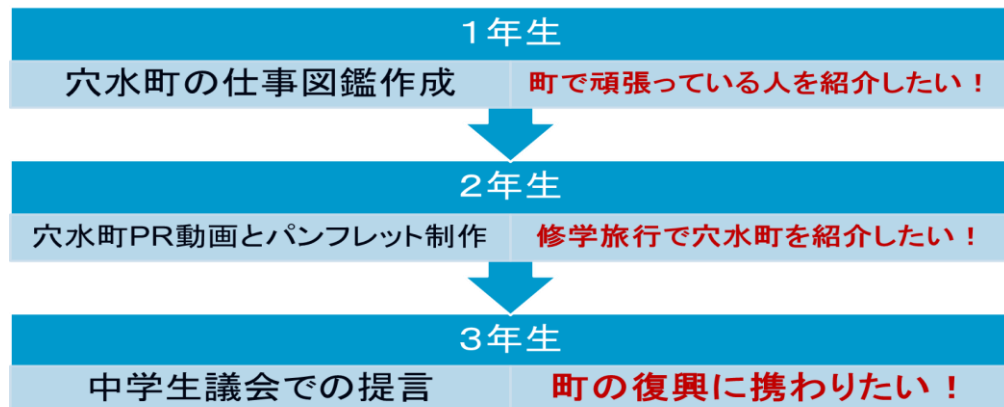
◇家庭・・・防災に備える安全な住まい方

◇道徳・・・被災時や避難所での自分や周囲の人たちの行動について考える

◇学級活動（身に付けさせたい力）

- ・いろいろな人とうまくやっていく力
- ・自分を自分で認めることや、自分の能力を磨いていくこと、そしてそれを続けること
- ・さまざまに現れる課題に対応したり、潜在的な課題を発見したりするための幅広い力

◇総合的な学習の時間



（5）生徒会活動の充実について

「自治活動を通してより良い生き方を考える」

◇執行部の思い：自分たちの学校を自分たちの手でよりよくするための活動をしたい！

学年に関係なく全校生徒が仲良くなるようにしたい！

◇活動：生徒総会・生徒集会・委員会活動・穴中タイム

→アウトプット力の育成＝より良い生き方を考える

（6）穴水中の新しい伝統を作る

「生き方科」のカリキュラムは、3年間で1つのサイクルになるよう計画を立てる。したがって、今年1年だけの活動ではなく3年間で1つのサイクルとし、穴水中学校の新しい伝統となるよう取り組む。